

創世記14 創世記7章1節～24節

「洪水の始まり」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 第3の区分(トルドット)「これはノアの歴史である」
- (2) このトルドットの構造：antithetical parallelism 対照対句法がある。
 - A 6：11～13 神は人類を滅ぼすことを決意する。
 - B 6：14～22 ノアは箱舟を造る。
 - C 7：1～9 神は箱舟に入るように命じる。
 - D 7：10～16 洪水が始まる。
 - E 7：17～24 洪水が150日続く。山々が水で覆われる。
 - F 8：1a 神はノアを覚えておられた。
 - E 8：1b～5 洪水が150日後に引いていく。山々が現れる。
 - D 8：6～14 地は乾き始める。
 - C 8：15～19 神は箱舟から出るように命じる。
 - B 8：20 ノアは祭壇を築く。
 - A 8：21～22 神は人類を滅ぼさないことに決める。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 神は箱舟に入るように命じる。
- (2) 洪水が始まる。
- (3) 洪水が150日続く。山々が水で覆われる。

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 洪水の内容
- (2) 洪水の普遍性
- (3) 洪水の預言的性格

このメッセージは、ノアの時代の洪水が普遍的なものであり、預言的性格を持っていることを確認しようとするものである。

I. C 7:1~9 神は箱舟に入るように命じる。

1. 「あなたと全家族」

- (1) 合計8人
- (2) 全人類の中で、ひと家族だけが義人（信仰による義人）。
- (3) 破壊から免れるための招き。
 - ①主イエスの招きも、これと同じ。
 - ②マタイ11:28

2. 動物

- (1) きよい動物 7つがい
- (2) きよくない動物 1つがい
- (3) 鳥 7つがい
- (4) モーセの律法の前から、きよい動物ときよくない動物の区別があった。
 - ①犠牲のささげ物は、モーセの律法の前からあった。
 - ②きよい動物とは、犠牲にも、食用にもなる。
 - ③少なくとも、牛、羊、ヤギが含まれる。
 - ④洪水の後、短時間に繁殖する必要のある動物。
 - ⑤食用、農耕のため。7つがい目は犠牲のささげ物となる。

3. 雨

- (1) 7日後に雨が降り始める。
- (2) これは、人類の歴史上初めての雨。
- (3) 雨は40日40夜降り続ける。
- (4) すべての生き物を地の面から消し去るため。
- (5) ノアの従順に注目。「ノアは、すべて主が命じたとおりにした」

4. 箱舟に入る。

- (1) ノアは600歳。
- (2) ノア、息子たち、妻、息子たちの妻が箱舟に入った。
- (3) まだ見ていない大洪水の大水を避けるため。
- (4) 動物の分類
 - ①きよい動物
 - ②きよくない動物
 - ③鳥
 - ④地をはうすべてのもの
- (5) 神が動物たちを集めた。

II. D 7:10~16 洪水が始まる。

1. 7日経って、大洪水が地上に起こった。
 - (1) 箱舟に入るために十分な時間。
 - (2) その時間を無駄にする余裕は与えられていない。
2. ノアの生涯の600年目の第2の月の17日。
3. 水源が2つある。
 - (1) 大いなる深淵の源(地下水源の水が溢れ出した)
 - (2) 天の水門
4. 洪水は何をもたらしているのか。
 - (1) 創世記1:6~7 2日目の創造が破壊される。
 - (2) 創世記1:2の状態に戻っていく。
5. 大雨は40日40夜地の上に降った。
 - (1) 地からの水はどうかは分からない。
 - (2) 恐らく、その後も溢れ出したのであろう。
6. ノアの家族は箱舟に入った。
 - (1) レメク(4:23)の場合は、一夫多妻。
 - (2) セツの家系では、一夫一婦。
 - (3) セツの家系で最初に複数の妻をめぐったのは、アブラハム。
7. 動物たちも箱舟に入った。
 - (1) あらゆる種類の獣
 - (2) あらゆる種類の家畜
 - (3) あらゆる種類の地をはうもの
 - (4) あらゆる種類の鳥
 - (5) 翼のあるすべてのもの(昆虫も含む)
8. 「それから、主は、彼のうしろの戸を閉ざされた」
 - (1) 回帰不能点を越えた。
 - (2) 神の守りが、残れる者(レムナント)のためにある。
 - (3) 箱舟の内には主の臨在があり、外には洪水があった。

III. E 7:17~24 洪水が150日続く。山々が水で覆われる。

1. 水かさが増し、箱舟を押し上げた。箱舟は地から浮かび上がった。
2. 水はみなぎり、地の上に大いに増し、箱舟は水面を漂った。
 - (1) 風が吹くままに流された。
 - (2) メソポタミア地方からアララテ山(ロシアの南部からトルコ)まで移動した。

3. 水は、いよいよ地の上に増し加わり。「メオッド、メオッド」
 - (1) 天の下にあるどの高い山々も
 - (2) すべて覆われた。
4. その上にさらに15キュビト増し加わった。
 - (1) 山の上にさらに6.6メートル
 - (2) 箱舟が山にぶつからなかったのは、そのためである。
5. すべての肉なるものと、すべての人が死に絶えた。
6. これは、地域的な洪水ではなく、全地を覆った普遍的な洪水である。
 - (1) そうでないなら、高い場所や、洪水が来ない地域に避難できた。
 - (2) これほど大規模な箱舟を造る必要はなかった。
 - (3) これほどの種類の動物を集める必要はなかった。
 - (4) 水が引くまでに要した時間を見よ。
 - ①水は、150日間、地の上に増え続けた。
 - ②地が渴くまでにさらに221日かかった。
 - (5) 神は、2度と洪水をもたらさないと約束された(8:21~22、9:11~17)。
 - ①地域的な洪水は起こっている。
 - ②しかし、普遍的な洪水は起こっていない。
 - (6) 現在の人類は、ノアの3人の息子から出ている。
 - (7) 聖書を知らない文化の中で、40以上のものが洪水物語を持っている。
 - (8) 聖書はこれを普遍的洪水と見ている。

ヨブ22:15~16、詩篇104:5~9、イザヤ54:9
マタイ24:39、ルカ17:27
ヘブル11:7、Iペテロ3:20、IIペテロ2:5、3:5~7
7. 洪水の預言的性格：IIペテロ3:5~7について
 - (1) 地は神のことばによって水から出て、水によって成りました。
 - ①創世記1:7~8 第2日目。
 - (2) そのようにして創造された地は、一度洪水によって滅ぼされました。
 - ①ノアの洪水への言及。神は裁きという形で超自然的に、有限な世界に介入された。
 - ②創世記1:2へ逆戻り。
 - (3) 今の天と地は、やがて火によって焼かれる。
 - ①神は再び、裁きをもって超自然的にこの世界に介入される。
 - ②今度は、水による裁きではなく、火による裁き。
 - ③これが起こるのは、大患難時代。

結論

1. 洪水の内容

- (1) 150日間水が増え続けた。
- (2) 箱舟の外に出るまでにさらに221日かかる。

2. 洪水の普遍性

- (1) 創世記1：7～8→創世記1：2へ

3. 洪水の預言的性格

- (1) 2日目の創造が洪水によって破壊された。
- (2) 今の天と地は、やがて火によって焼かれる。大患難時代。
- (3) キリスト教は、世界観であり、歴史観である。
 - ①時代を読んで、自分の立ち位置を確認する。
(例話) 死刑執行の現場はどうなっているのか。執行したことのある刑務官の証言。
 - ②私たちは、何を為すべきか。
 - *すでに箱舟は用意されている（イエスの十字架）。
 - *私の責務と、神の領域を区別する。